

令和4年度自己評価結果公表

作成 田辺幼稚園

1、本園の教育目標

1. 元気いっぱい遊べる子ども
2. 仲良く助け合う子ども
3. 個性を大切に創意工夫のできる子ども
4. 心の優しい子ども

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

本園の教育目標に基づいて、各教職員間で共通の認識を図り、自身の教育を見つめなおすこと。コロナ禍での教育内容の見直し、異年齢保育の研究と特別支援教育を充実させる。

子供一人ひとりが抱える問題について教員間で情報を共有し、専門機関等を活用して子供の成長向上に努め、教育内容の改善に取り組むようにする。特別支援児の支援の工夫に努める。

園舎の安全点検に努めていく。また消毒等安心安全に努める。

3、評価内容の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
異年齢保育における心の育ちの変更	新型コロナウイルスの感染状況が少し落ち着いてきているが、まだクラス単位での活動が多く、異年齢での活動の時間が少なかった。
特別支援教育の充実	個別の指導計画により、補助者と担任が話し合っ、支援を行ってきた。 又、巡回指導により適切なアドバイスをもらい、個別の園児にあった指導を試みている。保護者との連携を密にしているが、保護者の来園回数が減ったため直接顔を合わせる機会が減った。 専門の先生を招いて、指導のあり方等の勉強会を行っている。
園舎の安全点検	保育室や園庭の危険な箇所にクッション材をつける等して、予防措置をした。
保育内容	コロナ禍において、少しずつ元のような保育に戻しつつ、保育内容を見直し、規模を縮小させるなどして行事などを実施してきた。
情報公開	園だよりや参観日、ホームページなどで保護者への情報を活用し、緊急時には携帯一斉メール等を活用している。
火災・災害の発生に際して、園児、職員の安全確保のための避難訓練の状況	年に数回、避難訓練を自主訓練を実施している。 地域のラビット隊による危険箇所や交通安全の指導を受けた。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
4	<ul style="list-style-type: none">・ コロナ禍での異年齢交流は、回数を減らし、室内ではマスクを着用して安全に取り組んだ。・ 各クラスに加配が必要な園児があり、ニーズが高くなっている。 キンダーハイムから講師を招いて、職員の指導方法や悩みなどを聞いてもらい、先生の心の支えになっている。しかしまだ、保育内容の工夫が必要である。・ 安心安全な保育ができるよう、日々消毒、手洗い、点検に努める。

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
特別支援	外部から講師を招き、保育者がどの様に園児とかわるか等を研究していく。基本的な生活習慣を獲得するために個々の発達に応じた計画を作成し、丁寧に関わっていくと共に、日々の保育を振り返り、発達にあった遊びの提供、環境整備に努める。補助担当の教員と担任とで支援の工夫をしっかりと話し合い、共通理解をする。
異年齢保育の研究	コロナ前のような異年齢交流を開始し、クラスの中で各自が自分の思いを伝えられるようコミュニケーションをとっていきたい。
園舎の安全点検	園の内外の危険な箇所がないか定期的に点検すると共に修理等も行っていきたい。自由遊び中など、園児が自由に動くときは監視の職員を配置して安全に遊ばせる。
保健衛生	手洗い・うがい身の回りの消毒に努めていきたい。
保育内容	日々の保育の中で、園児たちが楽しく取り組めるよう教材の準備と創意工夫ができる題材を選ぶようにする。

6、学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、積極的に学校評価をするよう心がけている。

7、財務状況

公認会計士による監査により、適正に運営されていると認められている。